

来週の市場とレート予想

	2/20(月)	2/21(火)	2/22(水)	2/23(木)	2/24(金)
無担保O/N		△0.086% ~ 0.001%			
銀行券	△400	ト ン	△1,000	△2,000	△2,000
財政他	△30,600	+4,000	+3,000	△5,000	+3,000
資金需給	△31,000	余4,000	+2,000	不7,000	余1,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還 (3M・1Y)			交付税特会借入・償還	
オペ期日	共通担保(全店) △1,600 国債補完供給 △200 CP等買入 △300				
オペスタート	共通担保(全店) +1,500 ETF買入 +200	短国買入 +10,000 国債買入 +4,200		社債等買入 +800	
(日本)	貿易統計(1月)	全産業活動指数(12月)	日銀営業毎旬報告 (2月20日現在) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額	対外対内証券売買(前週分) 日銀木内審議委員講演	
(海外)	米 プレジデントデーの祝日で 株式・債券市場は休場 欧 ユーロ圏消費者信頼感 (2月) 欧 ユーロ圏財務相会合 欧 トゥスクEU大統領、ベンス 米副大統領と共同記者会見	米 ミネアポリス連銀総裁講演 米 フィラデルフィア連銀総裁講演 欧 ユーロ圏総合PMI(2月) 欧 EU財務相理事会	米 中古住宅販売件数(1月) 米 FOMC議事要旨 (1/31-2/1分) 欧 ユーロ圏消費者物価指数 (1月改定値)	米 新規失業保険申請件数 (前週分)	米 新築住宅販売件数(1月) 米 シガン大学消費者マインド指数 (2月確定値)

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.04 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.02 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.02 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.02 ~ 0.001

<インターバンク>

今週の日銀当座預金残高は、週初323兆円台から始まり、15日の年金定時払いで331兆円台まで増加し、週末は330兆円台となった。
無担保コールON物は、15日の積み最終日まで調達需要が強く、△0.045~△0.015%を中心に取引された。一方で、16日以降は落ち着いた地合いとなり、△0.075~△0.03%の水準で取引された。同加重平均金利は13~15日が△0.027~△0.026%、16日~17日が△0.047%~△0.045%となった。
また、試し取りが複数行実施され、+0.001%の出合いも散見された。
ターム物は、週を通して、1~2W物で△0.025~0%中心の出合いとなった。

来週の予定は、国内では1月貿易収支(20日)があり、海外では1月31日・2月1日実施分のFOMC議事要旨(22日)等が挙げられる。

[オープン市場]

CP3M(a-1+)	0.000 ~ 0.005
TDB 3M	△0.250 ~ △0.150
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約7,700億円で、商社・鉄鋼・不動産等の大型発行と5・10日発行が重なった事から、週間償還額の約5,700億円(金融機関・ABCP除く)に対し、発行超となった。発行レートについては、引き続き投資家の運用ニーズが強く、0%近辺での出合いとなった。現先レートの中心は、△0.100%~0.000%程度で推移した。
来週の償還額は、月末日の大量償還(約1兆1,200億円)のため、約1兆5,000億円となっている。23日に、CP等買入オペ(3,000億円程度)のオファーが予定されている。

<TDB>

16日に国庫短期証券3M第665回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.2024%(前回債△0.1904%)、平均落札レートは△0.2156%(同△0.2128%)と前回債と比べて利回りは低下した。セカンダリーは3Mで△0.27%近辺の地合いとなっている。6Mは目立った出合いは見られず、1Yは△0.41%近辺の地合いであった。来週23日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

積み最終日となる週初の足許GCは、先週末に続き△0.065%~△0.075%の出合い。以降は△0.08%~△0.09%の取引が続く展開となり、短国の発行が重なった20日受渡、短国買入オペがオファーされた21日受渡を含め、水準の変化はほとんど見られなかった。
SC取引では10年335回債のビッドが多く、△0.30%台半ば~△0.40%近辺が出合いの中心。カレント銘柄の10年345回債は、週後半△0.20%近辺で多く取引されていた。
その他、2年370・371・372回債、5年126・127・128・129・130回債、10年333・334・343・344・345回債、20年158・159回債、30年50・51・52・53回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。